

13. 京都支店・7/27 京都新聞

・京都市難聴者協会、 学生福祉活動団体コンポール、 福祉団体ネットワークすてっぷ

NPO 設立資金贈る

安田火災
記念財団
社会福祉3団体に



安田火災記念財団(理事長・有吉孝一安田火災海上保険相談役)は二十六日、本年度の社会福祉助成対象を決めた。京都府内では京都市難聴者協

会など三団体が選ばれ、中京区の同社京都支店で贈呈式が行われた。写真助成金は、全国の障害者や高齢者福祉団体に対して、特定非営利活動法人(NPO)の設立資金として各三十万円を昨年度から贈っている。本年度は全国の百団体を選んだ。京都府内で選ばれたのは京都市難聴者協会(岡崎安彦会長、京都市中京区)、学生福祉活動団体のコンポール(大浜徹代表、伏見区)、地域福祉団体ネットワークすてっぷ(尾崎百八子代表、長岡京市)の三団体。午後一時半からの贈呈式には各団体の代表者が出席し、杉下孝和支店長から助成金目録を受け取った。

14. 奈良支店・8/14 奈良新聞・エイズ資料館

エイズ資料館に助成金



決定通知書を受け取る稲葉館長(右)
=生駒市東松ヶ丘のエイズ資料館

安田火災記念財団が贈呈

贈呈式は、安田火災海上保険奈良支店の佐々木和博支店長らが同館を訪れて行われ、稲葉館長に決定通知書が手渡された。稲葉理事長は「いただいたお金を有効に使い、啓発活動に役立てたい」と話した。

同財団は、年間百団体に計三十万円の助成を行っている。本年度は二百七十一件の応募から、選考委員会による審査を経て、県内では同館だけが選ばれた。

同館は、薬害エイズで亡くなった人の遺品や、HIVに関する資料の展示を行っている。

昭和五十二年の設立以来、民間の福祉活動に支援を行っている安田火災記念財団(東京都、有吉孝一理事長)はこのほど、生駒市東松ヶ丘のエイズ資料館(稲葉美代子館長)に、NPO(民間非営利団体)法人設立資金として、三十万円(民間非営利団体)法の助成金を贈呈した。

・チャレンジハウスじゃがいもの木

県下で唯一選ばれる

安田火災記念財団「社会福祉助成」

上河原「じゃがいもの木」

財団法人・安田火災記念財団の「十三年度社会福祉助成」に、津山市上河原の「チャレンジハウスじゃがいもの木」(土井正義所長)が、県下で唯一選ばれ、四日、山下の安田火災海上保険津山支社で関係者が出席し、決定通知書の贈呈式が行われた。

分野で特定非営利活動法人(NPO法人)設立を計画している団体を支援しようというも。平成十年に「特定非営利活動促進法」が成立したことを受け、十一年度から社会貢献活動の一環として実施。以後、毎年度全国で百団体を選び、一団体につき三十万円を助成している。今年度は全国

から二百七十一件の応募があった。贈呈式では、伊藤征夫岡山支店長が「一日も早く法人格を取得し、地域社会で頑張ってください」と話し、決

定通知書を土井所長へ手渡した。「じゃがいもの木」は自立生活研修施設。民家を活用し、宿泊をともなった模擬

生活を行うなどして障害者の自立生活のため

の支援活動をボランティアでしている。土井所長は「来春には充実した活動ができるようになると思う。障害者が自分たちが決めた人生

を歩めるように手助けしていきたい。ありがとうございます」と感謝していた。



決定通知書を贈られる土井所長(中央)

・ Cotton Plants

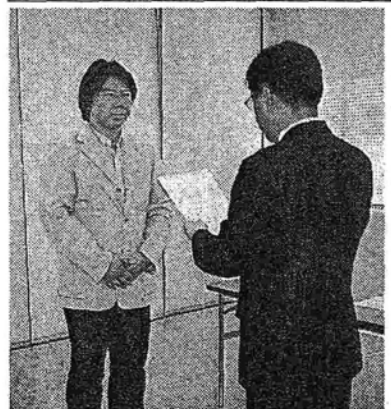
ボランティアへ助成金

安田火災記念財団 NPO法人化向け

【佐世保】安田火災記念財団(本部東京、有吉孝一理事長)は二十四日、特定非営利活動(NPO)法人の設立助成資金として、佐世保市ハウステンボス町の長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科のボランティアグループ「Cotton Plants」(代表・綿祐二助)に三十万円を贈った。

同財団は民間福祉活動を推進するため、一九九九年からNPO法人設立資金助成を実施。既に活動実績があり、法人化する。 Cotton Plantsは綿祐二助の学生十五人で結成。障害者への生活全般の相談に応じる電話相談を同大内に開設。過去一年間で約百件の相談に応じてい

への貢献が一層期待される。本年度は全国で百団体、県内ではCotton Plantsの二団体に贈呈。



岡村支店長から助成金を受け取る綿代表(左) 一佐世保市光月町、安田火災海上保険佐世保支社

贈呈式で安田火災海上保険長崎支店の岡村正雄支店長から助成金を贈られた綿代表は「九月までに具にNPO法人設立を申請、十月から本格的な活動をしたい」と意気込

17. 佐賀支店・7/14 佐賀新聞・それいゆ

◇「それいゆ」に助成金

佐賀市

安田火災記念財団は、本年度社会福祉助成団体に県内から佐賀市高木瀬東の福祉団体「それいゆ」(古賀義人理事長)を選び十三日、同市神野東の同佐賀支店(関



活動助成の決定通知書を受け取る「それいゆ」の古賀義人理事長(左)

援センターの設立を目指しており、助成金三十万円は、特定非営利活動法人(NPO)の設立資金に活用する。式後、古賀理事長は「貴重な資金を有意義に使いたい。それいゆとはフランス語で太陽。太陽のように光り輝く団体を目指していきたい」と語った。

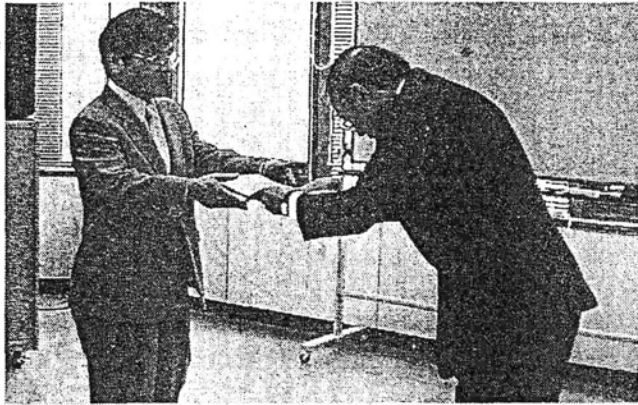
口健次支店長)で助成金を贈呈した。贈呈を受けた「それいゆ」は、グループホームをはじめとする自閉症のための生活支援センターの設立を目指している。

18. 鹿児島支店・7/25 大島新聞・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷

「ゆずり葉の郷」に助成金

安田火災財団が奄美で初

8月下旬にも NPO 認可



内山理事長に助成金の目録が手渡された

(財)安田火災記念財団(会福祉助成金として全国(有)孝一理事長)は社(NPO(非営利組織))

法人申請団体への助成活動を行っているが、今年度の助成団体として、奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」(内山正一郎理事長)が奄美から選考された。奄美で同法人から助成を受けるのは、同団体が初めて。名瀬市の安田火災鹿児島支店奄美大島支店(二十四日、贈呈式があり、松崎則夫鹿児島支店長から内山理事長に目録が手渡された。安田火災記念財団は、安田火災海上保険株式会社の社会貢献活動の一環として一九七七年に設立された。当初は法人格の有無を問わず助成活動を行っていたが、九九年が

少年の健全育成に向け、力を尽くしていきたい」と述べた。現在、ゆずり葉の郷は名瀬市長浜町を拠点としているが、三浦さんは「相談件数の増加に伴い、現状のスタッフや拠点では十分にフォローできないのが現状。いずれは宿泊可能な施設の整備も実現したい」と話した。奄美ではこれまでに二団体がNPO法人格を取得している。

19. 熊本支店・7/26 熊本日日新聞
・全国言語障害児をもつ親の会

安田火災財団がNPO設立助成金

安田火災記念財団の2001年度社会福祉助成金の贈呈式が25日、熊本市花畑町の安田火災海上保険熊本支店であった。助成金は障害者、高齢者福祉団体を対象に、NPO(特定非営利活動)法人設立を支援するのが目的。檀原彰支店長が、県内で助成先に選ばれた「全国言語障害児をもつ親の会九州ブロック」(熊本市)の佐賀叡ブロック長に助成金30万円の目録を手渡した。同ブロックは九州・沖縄の難聴、言語障害児を持つ親を中心とする団体。地域と連携し、より社会性のある活動を展開するためNPO法人設立を目指している。



NPO法人設立へ資金援助

安田火災記念財団が36団体に

だが、有吉孝一理事長はいさつの中で「当財団は小さな財団であり皆様とともに歩んで今日までできました。今回は助成式というよりも、交流の場と考えてもらえると幸い」とスピーチ。ぜひ、21世紀の市民活動の中核に成長してもらいたいと、激励した。



有吉理事長（写真上・右）が代表の日立市・日本自閉症協会茨城県支部・細川さんに決定通知を交付、写真下は贈呈式に出席した助成先の皆さん

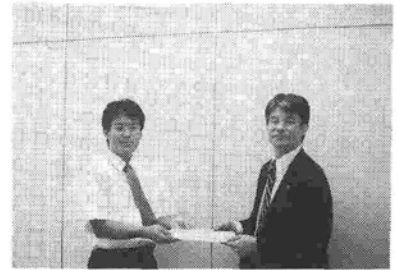
安田火災記念財団の平成13年度NPO法人設立資金助成関東地区贈呈式が4日、東京・西新宿の安田火災本社で行われた。関東地区1都6県の助成先は36団体だが、このうち33団体の52名が出席した。安田火災記念財団のNPO法人設立への資金助成は今年度で3回目の新しい活動

● マスコミへの掲載はありませんが、贈呈式の写真をお送りいただいた部支店をご紹介します。

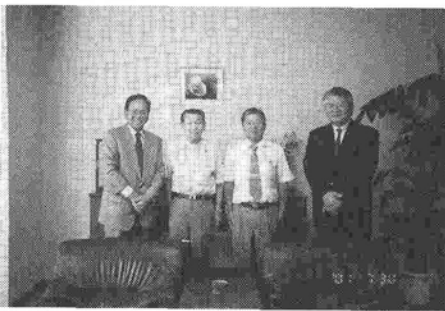
1. 仙台支店



2. 富山支店



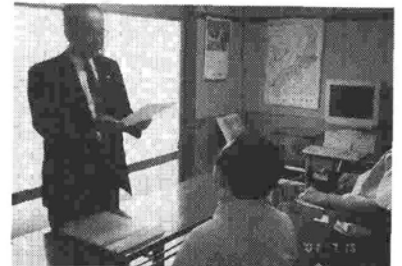
3. 長岡支店



4. 近畿総務管理部



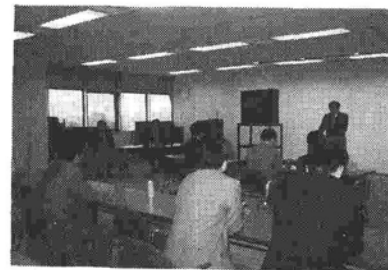
5. 愛媛支店



6. 北九州支店



7. 宮崎支店



「安田火災記念財団賞」記念講演会開催

7月14日（土曜日）午後2時より、安田火災名古屋ビル会議室にて、日本福祉大学と共催で「第2回安田火災記念財団賞受賞者記念講演会」を開催しました。当日は37度の猛暑でしたが、日本福祉大学（愛知県知多郡所在）の学生を中心に、社会福祉学に携わる約60名の方が熱心に聴講してくださいました。

講演は、著書部門受賞者の池本美和子様（『日本における社会事業の形成』日本社会事業大学助教授）、論文部門受賞者の北場勉様（『社会福祉法人制度の成立と今日的意義』日本社会事業大学助教授）、同部門受賞者の平岡公一様（『社会サービスの多元化と市場化』お茶の水女子大学教授）の順に受賞文献について解説いただきました。

講演会終了後の懇親会は、聴講者と先生方が自由に話せるよう設定し、講演内容および社会福祉学全般について活発な質疑応答がなされ、参加者から好評を得ました。

なお、当日の講演内容は、『安田火災記念財団叢書』にまとめ、後日発刊します。



8/2 インシュアランス



有吉孝一氏(述)

安田火災記念財団・理事長

若手・中堅の

魅力的論文・著書に期待

第2回安田火災記念財団賞受賞記念講演会は、日本福祉大学との共催で開催することができました。同大学の諏訪兼位学長をはじめ関係者に心からお礼申し上げます。

安田火災記念財団は、安田火災が昭和52年、新宿西口に本社ビルを建設した際、それを記念して設立した福祉関係の財団です。設立以来、①福祉諸科学に対する研究・出版に対する、ささやかな支援、それと障害福祉の第一線の実践をされている方々への助成という二本立てで、財団賞の審査委員長を務めていただいている三浦文夫先生はじめ皆様のご指導を頂きながら24年間活動を続けて来ました。

福祉分野も大きな変換期に来ているということで、平成11年に福祉助成の方を「NPO法人設立

助成」ということに切り替えまして、福祉諸科学の支援の方も、安田火災記念財団賞という福祉貢献表彰として始めました。

今回講演頂くのは、第2回目の受賞ということです。私は一昨年からこの理事長を務めており、全く福祉分野に対して、いかに自分が不勉強で関心を持たなかったかなと反省しております。

この記念賞の審査会、皆様ご承知の先生方ばかりですが、「門前の小僧」ではありませんが、臨席させて戴いて、そばで拝聴しておりました。延べ三日間、本当に熱心に議論されました。福祉学会の将来性、次代への期待、要請がいかに大きいかを感じながら拝聴しておりました。

三浦先生は、「むしろ論文として完成してなくても良い。大きな問題提起を含んだものを取り上げる事も考えてみたい。こうした方々と議論したいくらいだ」とおっしゃったのには感動しました。

私共の企画はささやかなものですが、先生方のご指導を頂きながら、こんごこの分野で若い学徒の方、中堅の方の魅力的な論文、著書がこれを刺激として出て来てくれたら、私共としては有り難いと思います。

—14日の安田火災記念財団賞受賞記念講演会から—

寄付金の御礼

- 次の方から寄付をいただきました。ありがとうございました。 中山 和彦 様